

## 重要文化的景観に選定されたらどうなるの？

# 3 文化的景観の活用

文化的景観は、ただ建造物などの目に見えるものだけを保護する制度ではありません。景観を作り上げる農業や漁業、祭りや年中行事などの習慣を継続的におこなえる仕組みも含めて計画していくものです。

たとえば、水田景観を保存する場合、水田そのものを保存するよりも、農業の振興に力を入れることが大事です。また、湖岸の石垣を保存しようとする場合も、石垣を畑や物干し場として利用している人々の暮らしを守ることが大切です。生活とかけ離れた状態で景観だけを保存しては、張りぼての景観になってしまいます。地元の方が利用するからこそ、生きた景観として後世に残すことができるのではないのでしょうか。

文化的景観に選定されることにより、以下のような効果が期待されます。

- ・文化的景観に対する理解の促進
- ・景観を生かした地域づくり
- ・「重要な構成要素」\*1 の修理・修景
- ・産業の促進（特産品のブランド化など）
- ・税制の優遇措置



①井戸。共同の洗い場、漁具の置場としても利用され、菅浦の生活に無くてはならないものです。②菅浦のミカン。寒さの厳しい湖北地方ですが、菅浦は南向きのため温暖でミカンの特産品としてきました。③小アユ。菅浦沖は豊かな漁場です。

### \*1 重要な構成要素とは？

重要文化的景観区域内で、景観をかたちづくる家屋や石垣などを「重要な構成要素」に指定することにより、国などの補助を受けて修理・保護ができます。ただし、現状変更を必要とする場合は文化庁の許可が必要になります。

#### ヨシ葺き屋根の改修例



改修前

改修後



西の四足門

## 重要文化的景観に選定されるには？

# 4 重要文化的景観の選定を目指して

現在、長浜市では、長浜市文化的景観活用委員会を設立し、菅浦の皆さんの協力を得て、調査を続けています。調査で明らかになった文化的景観の価値や範囲に基づき、景観を継承していくための保存計画を進めていきます。また、菅浦の価値を地域住民と共有するために、写真展や講演会も開催しています。

### 保存調査

景観の保存計画を作成するために、菅浦の景観の背景にある人と自然の関わりや、景観の変化を調べています。



これはなんですか



こんなんもあるんやで

### 普及啓発

調査で明らかになったことや、収集した資料を展示会や講演会を通して菅浦などの方々にお伝えし、文化的景観への理解や機運を盛り上げています。



### 文化的景観保存計画策定

菅浦の魅力ある景観を今後どのような形で保存していくかなどを住民、行政、専門家が話し合いながら決めていきます。具体的には、重要文化的景観の選定申出範囲の確定、保存の基本方針、規制の内容、保存管理体制などです。

### 所有者の同意

重要文化的景観の選定申出範囲を自治会から同意いただけます。また重要景観構成要素は所有者から同意をいただけます。

### 景観保存のための条例の制定

景観を保護するための規制を条例化します。なお、長浜市では、既に景観条例の制定・施行をおこなっています。

### 重要文化的景観の申出

### 重要文化的景観の選定

編集・発行：長浜市教育委員会 文化財保護センター  
〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981 番地 TEL 0749-64-0395 FAX 0749-62-6357  
Email bunkazai@city.nagahama.lg.jp  
発行月 平成 24 年 8 月

中世の香り感じる、奥琵琶湖の村落



Sugaura : the cultural landscape in the northern shore of Lake Biwa

# 菅浦の集落景観

重要文化的景観の選定を目指して！



長浜市教育委員会

## 菅浦の特色ってなに？

# 1

### 菅浦の景観の特徴 ～中世の景観を残す 湖岸の村落

菅浦は中世村落の様子が見られる貴重な景観が残されています。また、山々が琵琶湖に迫った地形は、漁業、舟運、農業、林業などの様々な生業を複合的にこなす菅浦独特の生業形態を生みだしました。その生業や暮らしが菅浦の景観を特徴づけています。

こうした菅浦の景観は、私たちが生活や生業の歴史的な理解をするにおいて大変重要で、後世に残していきたい財産です。



①菅浦。背後から迫る山並みにおかれ、集落は湖岸にはりつくように伸びます。②東の四足門。集落の境界を示す菅浦のシンボリックな存在です。現在集落の東西に四足門が残されていて、家のほとんどは四足門の内に建てられています。③鯛口（須賀神社蔵）。鯛口は参詣者が礼拝する際に叩く楽器です。写真のものは正応3年（1290）の銘があり、国内でも古い作例の一つです。

### 菅浦の歴史

琵琶湖の北端に位置する菅浦は、古くから大浦荘の港として発展しました。鎌倉時代になると大浦荘から自立し、以後室町時代にかけて大浦との間にある日指・諸河とよばれる田畑を巡って争います。その過程で菅浦は団結を深め、自力で村を守り外部の支配に屈しない高度な自治組織を作り上げました。その精神は四足門や門の内に家屋が集まる集落形態、菅浦文書などによって継承されています。

戦国時代以降、菅浦は浅井氏や江戸幕府の支配下に組み込まれましたが、自立の精神は根強く生き続けました。中世の流れをくむ忠(中)老役のもと、支配する膳所藩の代官との対立や延勝寺村との土地争いなどがおこなわれました。

菅浦の景観と豊富な文献は、中世以来、幾多の困難を乗り越えて村を守ってきた人々の精神を今に伝える国内に類をみないものといつて過言ではありません。



④菅浦と大浦下庄界図(須賀神社蔵)。1340年代、大浦荘との境相論の際に作成したとされる。朱線で大浦との境界を示している。



### 菅浦の暮らし

菅浦は山が琵琶湖に迫り平地が少ないため、古くから人々は舟運や漁撈に従事していました。一方で、田畑を耕作したり、薪や柴の伐りだしもおこなっていました。ほかに室町時代から明治時代にかけては柑子や油桐、明治以降は養蚕やタバコ、戦後はヤンマーの家庭工場が多数建てられ、菅浦の生計を支えてきました。

人々は世の中の情勢を機敏に把握し、限られた環境を巧みに活用し暮らしてきました。

また、自治会や祭礼に関する組織、共同の井戸を使うなどの密接な地縁組織によって年中行事や普請などが盛んにおこなわれています。



⑤須賀神社。⑥須賀神社春の例祭。例年3基の神輿が集落内を回ります。⑦石垣。湖岸には護岸や波除け用の石垣が多く残され、昔ながらの湖岸の村落景観を今に伝えています。⑧エリ漁。小アユやイサザなどを獲ります。菅浦には共同でエリ漁を操業するエリ組があります。⑨トシノミ。大晦日祭で神社に参拝した時にもらいます。1年間自宅の神棚に供えた後、軒下などに吊るし野鳥に分け与えます。



## 文化的景観ってなに？

# 2

### 文化的景観とは

文化的景観は、長い歴史のなかで人々が作り上げた独特の景観をいいます。地域の自然環境や社会的・経済的背景に強く影響されていることが特徴です。

文化的景観は、日々の生活に根差した身近な景観のため、その価値は日頃気づきにくいものです。文化的景観を保護する制度を活用すれば、文化的な価値を評価し、地域で護り、次世代へと継承していくことができます。

なお、平成24年6月現在、全国で30か所が国の重要文化的景観に選定されています。

### 重要文化的景観選定基準

一 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された次に掲げる景観地のうち我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特のもの

- (一) 水田・畑地などの農耕に関する景観地
- (二) 茅野・牧野などの採草・放牧に関する景観地
- (三) 用材林・防災林などの森林の利用に関する景観地
- (四) 養殖いかだ・海苔ひびなどの漁ろうに関する景観地
- (五) ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地
- (六) 鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地
- (七) 道・広場などの流通・往来に関する景観地
- (八) 垣根・屋敷林などの居住に関する景観地

二 前項各号に掲げるものが複合した景観地のうち我が国民の基盤的な生活又は生業の特色を示すもので典型的なもの又は独特のもの



湖岸の石垣。護岸・堤防としての役割のほか、集落付近では物干しや物置場、畑地としても利用されています。



ニユウ。伐り出した薪を積み上げ、出荷するまで乾燥させました。

### 文化財保護の体系

